

争論

現代社会、そして生協にとっての民主主義とは？

1. 民主主義の発展と現代社会の課題

山本 圭

2. 組合員の活動と運営の根幹に—コープみらいにおける組合員参加と運営—

吉川 尚彦

近年、「民主主義」について考えざるを得ないような情勢が広がりつつある。世界的には、大方の予想を裏切ってアメリカ大統領選挙で共和党のドナルド・トランプ氏が勝利し、イギリスでは EU 離脱派が国民投票で多数派を占めた。日本では、安保法制反対のデモが全国各地に広がり、大阪や沖縄では住民投票が、全国的な注目の下で実施された。こうした事態は、それぞれ論点は違えど、私たちにとって当たり前の存在である「民主主義」に関わって、その是非や意義を問いかけている。

この問いは生協をはじめとした協同組合にも通ずるものである。なぜなら、自発的に参加した組合員が、自らで民主的に運営する、そうした原則を組織運営の根幹に据えているのが協同組合だからである。そのような組織にとって、民主主義について考えることは、現在の情勢と照らしても決して無駄にはならないだろう。そんな思いから、今回は現代社会と生協にとっての民主主義を、それぞれの視点から考え学ぶこととした。

まず、社会にとっての民主主義については、政治学者である山本圭氏（立命館大学）にお話を伺った。山本氏はラディカル・デモクラシーと呼ばれる政治思想を研究する若手研究者であり、ご自身の知見から近現代における民主主義をめぐる思想、その大枠と近年の論点を非常に整理された形で語って頂いた。生協の民主主義については、日本最大級の生協であるコープみらいの吉川尚彦氏に、生協において組合員の自発的な参加がどのように営まれているのかという、いわば生協における民主主義の実践という視点からお話を伺った。

社会においても、生協においても、その構成員（市民・組合員）の多様性は増すばかりである。だからこそ、そうした社会のなかで、ひとつひとつの違いを踏まえながら、それでも意思を決定していくことの意味と難しさを、私たちは学ばなければならない。本企画が、読者がこれからの「民主主義」について考え、語り合うきっかけとなることを期待したい。

（本誌編集委員 加賀美太記）